

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
自ら学び ともに考え 行動する台小の子	『自ら学ぶ力・ともに考え・行動する力』

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○子ども一人一人にしっかりと向き合いながら、地域とともに歩む学校づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの意義や楽しさを知り、自ら学ぼうとする力を育てます。 ・積極的に人と関わり、協働しようとする意欲を育てます。 ・主体的に行動し、積極的に地域と関わろうとする態度を育てます。 ・家庭や地域、関係諸機関と連携を深め、開かれた学校づくりを進めます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	<p>①一人一人が自分の考えをもち、互いに認め合い高め合えるようにするとともに、スキル学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。</p> <p>②「教科等横断的に育成を目指す資質・能力」読書活動を啓発し、語感を高め、自己を豊かに表現できる子を育成する。</p>
担当	重点研推進委員会

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均よりも下回っている。学習意識・生活意識調査の各項目をみると「勉強は大切」「勉強は役に立つ」などは、横浜市の同学年と比べて劣らない。「勉強は好き」「授業を理解している」は横浜市と比べて少し劣る。教科等の学習が好きで、大切だと考える児童がいるが、学力に反映しない部分については、基礎基本の確実な定着を図り、自己肯定感を高められる授業改善が求められる。

(2) 学力層を経年変化で捉えた分析

同じ児童集団の学力層を経年で捉えたときに、少しずつ学力層 AB が増えてきているが、どの年度においても約3分の1の児童が学力層 D に該当している。朝のスキルタイムに、独自に作ったプリントやはまっ子学習ドリルで基礎基本が定着するように図っていく。また、取り出し授業や算数の少人数教室において、個に応じた指導を進める。

(3) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

教科を問わず、学力層 D は「○○の勉強は普段の生活や社会に出て役立つと思いますか」「○○の授業は楽しいですか」などの全ての質問項目において、意識の低さが見られる。学力層 D は学習の楽しさや生活の中での必要感がないと考えられる。そのため、学びで知識を獲得する楽しさを実感できるような学習展開ができる工夫をしたい。また、生活の中での切実感や知識を生かせるような学習課題を提示するなど、導入部での授業改善が必要である。

年度	学力層 A	学力層 B	学力層 C	学力層 D
30年度 6年生	24	29	16	31
29年度 5年生	30	30	7	34
28年度 4年生	30	23	16	32
27年度 3年生	21	26	23	30
26年度 2年生	25	14	14	48
25年度 1年生	17	17	27	39

3 令和元年度 教科等として育成を目指す資質・能力と具体的取り組み

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆ルールや話型を理解する	○ルールや基本の話型を掲示し、視覚的にもわかりやすくする。 ○教師がモデルを示すことからまねる活動をはじめ、教師→友達の視点で活動を広げていく。	
2年	◆友達やモデルをまねて、活動してみる	○話型を用いて、話合い・意見の言い方のモデルを提示する ○様々な教科で応用できるよう、何度も繰り返し取り組んでいく	
3年	◆目的を明確にして聞き、順序立てて話し合う力	○話の中心に気を付けて聞き、話の内容に沿った意見を言えるよう、モデルを提示しながら取り組む。 ○既習内容を確認した上で、本時目標を具体化する。	
4年	◆めあてを理解して自分の考えをもつ力	○事例を挙げることを意識して話し合いをする。「例えば、○○」などの話型を明示する。 ○必要な情報を見つけ、自分の言葉で言い換えるなどができるようにする。	
5年	◆児童が主体的に学習の進め方を計画する。 ◆学習の見通しをもって社会的事象の意味を追求する。	○学習の見通しをもち、進行に合わせて、話し合いができるようにする。 ○友達の意見に耳を傾け、良さを認めて、自分の考えを高める。	
6年	◆自ら学習をふり返る。	○①本時目標の具体化。 ②本時目標達成のための手立て。 ③児童の見取り。	
個別支援学級	◆「話す・聞く」の能力の向上	○相手と気持ちよくコミュニケーションがもてるようにする。	